

**東京毎日新聞**

刊夕日五十月七

發行所 東京市本町三丁目  
電話 六三〇番

印刷所 東京市本町三丁目  
電話 六三〇番

定価 一月五圓  
半年三十圓  
一年六十圓

代金 郵便局掛  
送料 別記

休刊日 日曜・祝日・盆日

社址 東京市本町三丁目  
電話 六三〇番

東京毎日新聞  
刊夕日五十月七

軽い風味の  
カステラ饅頭

拾銭に四ツ

**ヤトモツマ**

番四一二話電

**外科専門**

入院應需

**上田外科醫院**

平町 南町  
電話 一二九番

**速迅自動車**

切貸自動車

番七四話電  
番七一六話電出呼

助手名募集

平町南町

主 芹澤正忠

自動車部 強勉

專賣特許タイル  
各種タイル  
テラコッタ  
煉瓦  
衛生用陶磁器

御注文申込次第  
店員參上

産地「伊賀」焼

特約店

**(上) 武屋茶店**

平町三丁目

**あふすの話(上)**

羽岡老人

ウキダール反應検査のため  
に發泡膏を一晚貼つて置い  
て出來た水泡の中の水を血  
清に代用する事も出来るが  
血液を採る方が却て苦痛が  
ない、ちふす菌は大小便か  
ら出るのを之を培養して檢  
査する事が出来るが釣り合  
する様な検査であるからち  
ふす菌が在つても出ない場  
合が屢々ある故に早期診断  
としては血液培養に劣る、  
兎に角患者の方から醫師を  
督促する位にして出來るだ  
け早く診断して貰はねばな

らぬ、検査には色々設備を  
要するのであるから不便な  
處では材料を検査所迄郵便  
で送らねばならぬ事もある  
然し其準備だけは醫師の方  
に整つて居る筈であるから  
醫師が早く診断をせねばな  
らぬと氣が付さへすれば  
左まで困難な事はない。  
ちふすと決まつたら  
ちふすと決定したら後の始  
末を急がねばならぬ、第一  
ちふすと定まつて始めて治  
療の方針も立つわけである  
ちふすでないものをちふす  
と思つて治療をして居たの  
ではうまく行くわけの者で  
ないしちふす患者をそうで  
ないつもりで手當をして居

たら大變な過失が起るかも  
知れぬ、例へば食物にして  
も、ちふす患者には非常に  
注意しないと腸の傷にさわ  
つて出血したり腸に孔があ  
いたりして死ぬ者も少なく  
ない、食欲がないからとて  
捨てて置けば衰弱して終ふ  
し食欲が出たとして無暗な物  
を喰へさせると飛んでもな  
い結果になる、ちふすの治  
療は入院して醫師と看護に  
任かせるのが一番良いので  
自宅治療は大抵結果が悪い  
それはちふす患者は絶対に  
身心の安靜が必要なのであ  
るのに家の者が大勢付いて  
居て神経を亢奮させたり又  
身体を氣儘に動かしたりし  
て病勢を重くするのである

**暑中御伺**

和洋結髪  
美顔術  
御化粧法  
衣裳着附  
美爪術  
装身法

平町四軒町  
**水野化粧院**  
水野フユ

**看護婦派遣**

の求めに應ず

平町南町  
**平看護婦會**  
電話三〇七番

**家賃**

新川町十七番地  
表通商店向  
新川町十八番地  
裏家二月建

新川町 中野勇吉

七月十五日替り  
市川百々之助主演

**聖塚原小太郎**

松本泰輔主演  
大原明行「罪の一夜」  
全巻 琵琶大原錦陵氏  
連続強カエルモ  
第十五篇 第十六篇

關東社牧野製作  
月形龍之助主演  
マキノトウ子  
時代人情悲活劇 全九巻  
帝キネ 有聲座  
直營

**天賦之滋養**

德田博士推奨

純良食用 **蜂密** (病弱者は勿論保健衛生を重  
んずる人は常用せられよ)  
ハカリ買りも致します

蜂密生産 蜂群養成 石城養蜂場

(平町販賣店) 田町金子酒店、五丁目山野  
邊藥局、南町龜山酒店、土橋大森商店、搦  
搦小路大須賀商店

**盛夏に**

向く特別品

縞羽織.....五圓五十錢  
全.....七圓  
白縞.....七十五錢  
繪羽浴衣地三圓五十錢  
手拭中形 八十錢

警城平町三丁目  
**中野吳服店**  
電話六十七番

東京新聞紙上帝國實業貯蓄  
銀行ニ關スル記事ハ一部信  
ズベキ點アルモ事實トハ相  
違ノ點多ク已ニ解決シタル  
一ヲ今更棒大ニ記載シタル  
モノニシテ本店營業上ニ關  
シテハ何等變リタル一ナク  
大藏省認可ニヨル營業案内  
ヤ通帳規定ニ基キ整然トシ  
テ行務ヲ勵行シ聊カ憂フヘ  
キ點ナク本店モ當店モ營業  
ニ努力致シ居リ候間更ラニ  
御同情ヲ蒙リ度謹告候也

株式 帝國實業貯蓄銀行  
會社 平瀧代理店

預金者各位

**常磐片々**

暑熱九十五度、初めて夏らし、氷屋喜ぶ

○ 自轉車泥盗んだ自轉車に乗せられて平署に引致、歩かぬだけが役徳と思つたかどうか

○ 盆唄でお馴染みの蟬や螢、今年には本當に焦げ死す

○ 心中の片破れ死に遅れて線路に飛び込む、汽車で追いつける氣か

○ 胡瓜祭りの一の矢天皇、今宵

**東部電力の營業奉仕**

五斯入電球無料提供や其他増燈増燭に大特典

東京電力平營業所にては十五日より向ふ一ヶ月間顧客に對する營業奉仕として期間内に廿四燭光以上の新増設又は増燭變更の申込みに對してはマツダ五斯入電球を無料で貸付くる事を前提とし低燭から高燭に取替ふる際は例へば五燭から百燭に取替ふるもその日から八月卅一日迄は舊料金以外に徴收せず且つ取付工費は無料とする一方十六燭光以上の休燈點火は八月卅一日迄一段下りの料金に割引す

**漁業組合現狀**

大小さまざま

石城郡沿岸の漁村にそれ／＼漁業組合の設けあり相當に皆活動してゐるある組合の如きは三萬圓以上の基金を有し漁獲物の加工をしたり組合員に漁業資金を貸付たりしてゐるものもあればまた組合員わずかに

**電話當籤者**

本日抽籤執行

平局に於ける本年度架設電話の抽籤は本日午前十時平町役場にて執行當籤者は左記の如くである

花澤久一郎、長瀬文造、酒井喜代正、鹽坂勝二、宇佐美友一郎、中央碍子株式會社取締役堅田欽次、高野虎三郎、布施金太郎、上田雅宣、齊藤銀次郎、丸石石村商會代表者鈴木彌米、永山キン、江尻松吉、酒井温夫、堅田欽次、遠藤喜八郎、鈴木光逸、

**平町人事**

▲出生  
△鐵道官舎二〇小林健吾氏七女カネ子  
△五丁目六 齋藤元三郎氏長男鐵二郎  
△三丁目三六 清水安信氏三女幸子

▲梅澤石松 (豫備)石崎幸一、丸山徳次郎、鈴木佐吉、古田部春吉、菊地喜平、大澤研法、佐々木浦吉、阿部康五郎、内田ハナ、比佐六平

▲平署拘留科料 平署管内本年一月以降六月迄半年間に於ける警察犯處罰令に依る拘留及び科料は百六十六件、其内拘留は十六件にて男一人、女十五人である

**今年 螢や蟬が少い**

或古老に聞いて見ると

もうそろそろ土用に入らうとする今日此頃、夕方涼を趁ふての散策に團扇片手に田の畦で螢狩りと云ふ時節だのに螢も見えねば、暑い日盛りの晝さがりとりもち着けた、竹竿持つてジーンと焼くやうな蟬の音を追ふ子供の姿も見受けられぬ、どうして今年には螢や蟬が少いのだらうと、いぶかしがるも無理はないほどに、その原因に就て或古老に聞いて見ると、螢などは露氣の多いところ

**計器商大會 準備の協議**

平署に於いて

既報日本度量衡協會福島縣支部並に福島縣計器商組合總會は来る八月中旬平町に開催の豫定であるがこれが具體的協議のため七月十日

**七月の草花 (其四)**

朝顔の觀賞 朝顔はこの月中旬になれば大体咲きそろつてくるが、鉢植のもの

庭家 欄

**同工場**

を逃げ出し

郷里に立ち歸つて両親の許しを得んとした所光勇には前科があり女の親はそれをのが最も觀賞するのに都合がよい、花には色々藝のあるものは支柱立てを行ふてやるが大輪種は支柱を施さないのがよい、鉢は充分に日中大陽光線にあつて、夕方灌水をしてやるがよい、一週間に一二回の割合で油粕の水溶液を施してやるのが朝顔培養の普通方法である

**募集**

文藝其他投稿を募集します

番内房義方雇人佐川とめ (三)子供は主人房義の次女きぬえ(三)で多分前に通つた列車にハネ飛ばされたものらしく加療中に死亡した

**平驛の待合室を 無料宿泊所と心得**

高いびきでグウ

此れも不景氣の餘波か近來平驛待合室を無料宿泊所と心得て毎夜ベンチに横はつてゐる者が平均十數名に達し

**自轉車泥 腰なわ付で 平署へ引致**

東京市牛込區市ヶ谷立立職小林房春(三)は中村町にて自轉車一臺を窃取し夫れに乗つて昨日石城郡に來り正午頃内郷村綴の掛茶屋に休んで居た所を平署佐藤村上兩刑事に逮捕され腰なわをつけた儘自轉車に乗せられ平署に引致される

**情死の片割れが 勿來隧道で轢死**

情婦の後を追ひ兼ねて 時こそ所を異にし

石城郡勿來町字石山の鐵道トンネル内に去る七日午後二時ころ一名の轢死人あつたが調査の結果同人の懐中遺書に よつて東京府瀧野川町西ヶ原學生鈴木三郎(三)なること判明した同人は當時小名濱町海水浴旅館津村屋に投宿し宿料四圓七十錢を支拂はず六日朝に逃走したもので失戀の結果とも見られ又現場にあつた同人のハンカチに「今散る花親の許さぬ心中許して下さい」と薄書されてあり情死の

**生きて甲斐なし 前科が祟る**

斯く所を離れての情死者おすぎ、光勇の兩名は静岡縣下の某製糸工場に働いてゐる内同郷人の關係から相思の仲となり夫婦約束までしたが六月下旬

**年中轢かる 女中**

植田泉間にて

十三日午後五時半頃常磐線下り八一七貨物列車が植田泉間作場踏切附近に差しかつた際子供を背負つた一人の女が血塗れとなつて倒れて居るを發見、泉驛につくと同時に驛員駆けつけ醫院へ收容手當を加へたが女は石城郡鮫川村深野字古坊

五日後から増田技手出張平町營業者その他有志と來る十五日午後一時から平警察署に集合懇談を遂げる筈

嫌つて兩名の願ひを許さぬため戀の二人は生きて甲斐がないとて情死を決し同郡の母畑温泉に數日間の名残りを惜しみ三日の夜前記石川町八幡神社裏手で死を決し先づ光勇がおすぎを

細帯で 絞殺し自分もその場で死なんとしたか死に遅れその場から逃走したものであつたと

子を貢ふた